



お話を伺いました

株式会社ナチュラルスタンス
株式会社パオラックス
代表取締役社長
岩崎 智之さん

～お散歩&日常デイ～
おとなりさん。



～お散歩&日常デイ～おとなりさん。
東京都内に3か所、福岡県に3か所ある小規模デイサービス(地域密着型通所介護)。デイサービスの中で利用者が農作業に関わるなど、地域と積極的に関わる活動を通じ、「農業を絡めながらの福祉」「農福を絡めながらの地域づくり」に取り組む。

デイサービス(通所介護)とは

受けられるサービスの例



介護保険サービスの一つであるデイサービス(通所介護)。利用者が可能な限り自宅で日常生活を送れるよう、日帰りで自宅から施設に通い、日常生活支援を受けたり、生活機能向上のための訓練を行ったりします。※利用定員19人未満の「地域密着型通所介護」は、原則として居住する市区町村以外の施設・事業所のサービスは利用できません。

生きがいを感じられる 地域の一員としての役割

小規模デイサービス「おとなりさん。」などの介護事業を起点に、「地域力再生業」に取り組む株式会社ナチュラルスタンス代表取締役の岩崎

2022(令和4)年1月1日現在、多摩地域全体の老年人口比率は25.49%で、およそ4人に1人が65歳以上という状況です(※1)。厚生労働省によると、2020(令和2)年度の変更要介護・要支援の認定者数は全国で682万人、介護保険制度が導入された2000(平成12)年から2.66倍に増加しています(※2)。超高齢・人口減少社会となった日本では、介護予防や高齢者を支える地域づくりが大きな課題となっています。

高齢者が力を発揮できる地域をつくる 誰かに支えられ、誰かを支える

これからの社会

地域のイベントに出店。
ワークショップで地域の方と交流

近所の公園へ散歩。
地域の子どもと交流



「支援する側とされる側ではなく、皆が地域の一員としての役割を担い交流する、地域の集会所のような場」と岩崎さんは言います。「地域社会はもともと、子どもも大人も皆が支え合って成り立っていたと思います。誰かの役に立ち

智之さんに、高齢社会とこれからの地域づくりについて伺いました。「おとなりさん。」は、西東京市・国分寺市・小金井市のほか九州の福岡市に事業所を構える、それぞれ10〜18名という比較的小人数の利用者に向けた地域密着型の通所介護施設です。

「支援する側とされる側ではなく、皆が地域の一員としての役割を担い交流する、地域の集会所のような場」と岩崎さんは言います。「地域社会はもともと、子どもも大人も皆が支え合って成り立っていたと思います。誰かの役に立ち

「ありがたい」と言われることは生きがいを感じられることでもあり、ここでは利用者の皆さんに、テーブルを拭いたり誰かのためにものを作ったり、子どもを見守ったりと、ごく身近な地域のために力を発揮していただいています」

「おとなりさん。」の活動の大きな柱の一つが農作業です。人の暮らしの根幹である食を生み出す営みに、利用者もスタッフもできる範囲で取り組んでいます。

「事業所のある地域の畑や田んぼに関わらせていただき、体を動かせる方は収穫をしたり、そうでない方も畑に来る子どもたちと交流しています。農の体験を通して食の大切さについて学べますし、農作業は多岐にわたるため、高齢者も子どもも、引きこもりや障がいを抱える方も、補い合って協力することになります。このような活動を通じて、お互いが支援者であり支援される側でもあるという「互助」の仕組みをつくりたいと思っています」

岩崎さんによると、他者との関わりが高齢者にもたらす影響は大いにあるようで、デイサービスの日には身支度を自ら進んでしたり、普段よりも会話が增多る利用者もいるそうです。「おとなりさん。」の日々の活動を紹介するSNSの写真はどれも、高齢者の生き生きとした表情が印象的です。

介護事業において地域とのつながりに重きを置き、助け合う関係性を築くには、「仲間探し」が最大の課題であると岩崎さん。「おとなりさん。」の理念に共感

「ありがたい」と言われることは生きがいを感じられることでもあり、ここでは利用者の皆さんに、テーブルを拭いたり誰かのためにものを作ったり、子どもを見守ったりと、ごく身近な地域のために力を発揮していただいています」

「おとなりさん。」の活動の大きな柱の一つが農作業です。人の暮らしの根幹である食を生み出す営みに、利用者もスタッフもできる範囲で取り組んでいます。

「事業所のある地域の畑や田んぼに関わらせていただき、体を動かせる方は収穫をしたり、そうでない方も畑に来る子どもたちと交流しています。農の体験を通して食の大切さについて学べますし、農作業は多岐にわたるため、高齢者も子どもも、引きこもりや障がいを抱える方も、補い合って協力することになります。このような活動を通じて、お互いが支援者であり支援される側でもあるという「互助」の仕組みをつくりたいと思っています」

岩崎さんによると、他者との関わりが高齢者にもたらす影響は大いにあるようで、デイサービスの日には身支度を自ら進んでしたり、普段よりも会話が增多る利用者もいるそうです。「おとなりさん。」の日々の活動を紹介するSNSの写真はどれも、高齢者の生き生きとした表情が印象的です。

介護事業において地域とのつながりに重きを置き、助け合う関係性を築くには、「仲間探し」が最大の課題であると岩崎さん。「おとなりさん。」の理念に共感

これからの地域を支える「互助」の力

ボランティア活動や住民組織の活動、近隣同士のちょっとした助け合いなど、費用負担が制度的に裏付けられていない自発的な支え合いである「互助」。少子高齢化や自治体の財政状況などから、地域包括ケアシステム(※3)の中でも「自助」「互助」の果たす役割が大きくなることを意識した取り組みが必要とされています。



し、高齢者が地域で力を発揮できる場を提供し、ともに地域づくりに取り組める仲間を常に探しています。「本来は町内会くらいの距離感で互いに支え合っていくことが理想ですが、高齢化が進み、町内会の活動自体が難しい地域もたくさんあります。そうしたところでは子育て世代が自分の暮らすまちに意識を向けて、多世代の「おとなりさん」同士が支え合えるような地域を目指しています」

※1：公益財団法人東京市町村自治調査会「多摩地域データブック～多摩地域主要統計表～2022(令和4)年版」 ※2：厚生労働省「令和2年度介護保険事業状況報告(年報)」 ※3：高齢者が住み慣れた地域で自分らしい生活を最期まで続けられるよう助け合う包括的な支援・サービス提供体制